

# 「ひと・つな」だより

ひととの  
つながり  
を大切に

～三重県に生まれ育つすべての子どもに途切れのない支援を～

## 子どもや保護者を支える地域支援ネットワークの構築に向けて

センターの前身であるあすなろ学園当時から、発達障がいに関する支援ニーズは高く、センターになって初診枠を拡充してもなお、予約が取りづらいといった状況が続いています。そうしたことから、令和6年度受診分の予約について、いつでも申込みができ、より医療が必要な方の受診までの期間が短くなるよう、「原則電子申請による受付、受診期間を年4回に」と変更したところです。

また、センターは、児童精神科専門医療の提供だけでなく、発達支援の拠点として地域を支援する役割も担っており、現在も市町との協働により、市町の発達支援体制のしくみづくりや市町の人材育成、支援ツールの普及に努めています。

一方、子どもが暮らす地域では、保育所や幼稚園、学校等において、日々子どもや保護者への支援が継続的に行われています。市町の相談窓口には、センターで1年間の研修を受けたみえ発達障がい支援システムアドバイザー等（CLMコーチは半年研修）が配置されているところもあり、そうした専門人材が、センターで培ったスキルやノウハウ等を基に、保護者からの相談対応や地域の園等に対して技術的な助言、センターへの橋渡し等を担っていただいています。

このように、身近な地域で、子どもや保護者への支援が早期に適切かつ継続的に行われることで、子どもの問題行動の発生を予防し、医療にかからなくてもすむこともあります。また、保護者の不安の軽減や地域の支援力の向上にもつながると考えています。

センターが、医療機関として子どもや保護者に関わるのは一時的（点）であることを考えると、このように身近な地域で子どもや保護者が継続的（線）に支えられる体制やしくみがとても大事だと考えます。

今後は、地域の医療機関も含め、子どもや保護者を支える人材や支援機関が、それぞれの強みを活かし、有機的に連携した地域のネットワーク（面）で子どもや保護者を支えることが、より求められるのではないかと考えています。

こうしたネットワークの構築に向けて、みえ発達障がい支援システムアドバイザーやCLMコーチといった発達支援の核となる方々が、これまで以上に力を発揮し活躍されることを期待します。

センターとしても「全ての子どもが生まれ育つ身近な地域で、適切な支援を受けることができ、各ライフステージで途切れなく橋渡しされていくこと」の実現に向け、引き続き市町等関係機関と連携し取り組んでまいりますので、ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



県立子ども心身発達医療センター  
発達総合支援部長 小端千津

# 地域医療と市町連携による“子どもの発達と保護者の子育て”を支援する！

～ いなべ市「医療連携実務者会議」取材してきました！ ～

保健・福祉・保育・教育が連携して行う地域の発達支援に、医療（地域の基幹病院）を加えることで、よりしっかりと子どもを支えていこう！をコンセプトに始まったいなべ市の取り組みは、これからの地域支援を示唆するモデルとなりそうです。

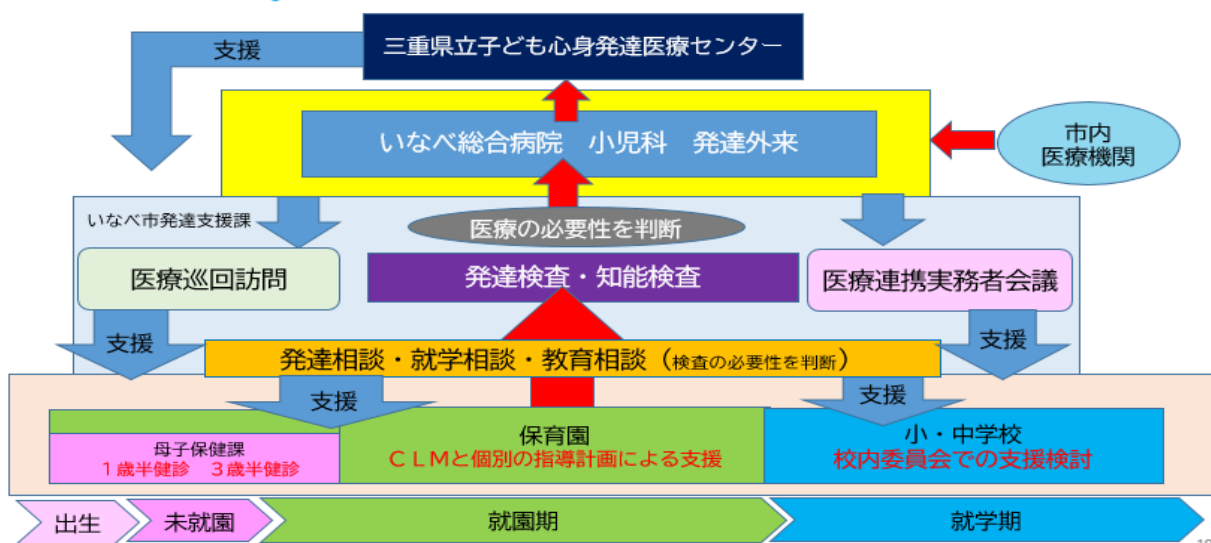
いなべ市発達支援課は、いなべ総合病院小児科の濱口医師と NPO ライフ・ステージ・サポートみえとの協働により、月1回、「いなべ市医療連携実務者会議」を実施しています。会議では、園・学校担当アドバイザー等の職員からの子どもの状況や課題の報告をもとに、主治医の見立てと支援の方向性を明確にし、「CLMと個別の指導計画」を活用した支援や環境調整等の適切な支援につなげています。発達障がい児地域支援ネットワークの構築に向け、大きな一歩を踏み出しています。

10年前にいなべ市と関わりを持たせてもらったのが始まりです。保護者は、それぞれの立場から違うことを言われると混乱することがあるが、「いなべ市医療連携実務者会議」を持たせてもらうことで、支援する側の人間が方向性を同じにしていけるところがよいと思っています。多職種で集まってアセスメントするため、細かいところまで教えてもらえるのが何よりもよいと思います。〈いなべ総合病院 濱口医師〉



地域の基幹病院として、病気に向き合うだけでなく、成長を支えることも重要な役割だと思っています。〈いなべ総合病院 岩名事務部長〉

## いなべ市発達支援医療連携ルート



### 医療連携実務者会議



＜いなべ市役所 保健センターにて＞

- 目的：対象児童・保護者に対して、学校・園、医師、発達支援課が同じ方向で支援を行う。
- 参加者：濱口貴代先生、中村みゆさ氏  
発達支援課職員  
社協療育支援係
- 内容：翌月受診予定児童について情報共有と支援検討  
①担当者から児童観察及び教育相談の進捗状況について報告  
②濱口先生から診察について報告  
③意見交流（課題の確認）  
④今後の支援について検討

### 発達支援課との連携による担当医師のメリット

- ①児の特徴に対する共通理解を児に関わる多職種で共有できる
- ②事前情報を入手でき、来院目的が明確になる
- ③集団生活の中での様子を知ることができる
- ④利用資源についての情報を得られる
- ⑤環境調整のための情報を共有することでスムーズに園や学校と協働できる
- ⑥“医師巡回訪問”により、児の様子を直接観察できる

～ 今後も直接現場にお邪魔して、支援に関する最新情報や市町の様子をお届けいたします ～

# スリーヒントゲーム に挑戦!

## 担任の願い

先生の話や友だちが話をしている途中で喋り出さず、最後まで聞いてほしい



Aくんもクラスみんなも

成長できるあそびに取り組みたい

名前: Aくん (5歳児)

チェック項目 (3) 先生の指示を聞いて行動できない  
エピソード なぞなぞやクイズの時、「最後まで聞いてから答えてね」と伝えても、問題の途中で喋り出す

要因

①問題の終わりがわからない

目標 スリーヒントゲームの時、3つのヒントを最後まで聞いてから答えることができる

期間	具体的な指導方法		結果・評価		
	<クラス環境の整えとクラス全体の支援>	<個別の支援>	月日	O×	特記事項
O/O (O) ~ O/O (O) O回	<p>&lt;クラス環境の整えとクラス全体の支援&gt;</p> <p>【スリーヒントゲームの時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スリーヒントゲームは、3つのヒントを聞いてから答えるゲームであることを伝える</li> <li>最後に「な〜んだ?」と先生が言ったら手を挙げることを伝える</li> <li>担任が例題を出し、Aくんが答える時の見本を示す</li> <li>問題を出す時は、「①~です、②~です、③~です」と数字を指で示しながら、3つのヒントを言う</li> <li>「な〜んだ?」の声かけの後、手を挙げた子を当て、答えを発表してもらう</li> <li>はじめの5日間はAくんを当てる機会を作る</li> <li>正解のイラストを見せる</li> <li>3つのヒントを聞いてから答えることができたことをほめる</li> </ul>	<p>&lt;個別の支援&gt;</p> <p>【前日の自由あそびの時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「明日からスリーヒントゲームをするよ。3つのヒントを最後まで聞ける子がかっこいいよ」「『な〜んだ?』と先生が言ったら、手を挙げて答えてね」と声をかけ、練習する。</li> <li>「みんなの前で答える見本をしてね」と伝える。</li> </ul> <p>・3つのヒントを聞いてから答える見本ができたことをほめる</p> <p>・3つのヒントを聞いてから答えることができたことをほめる</p>			
					<p>幼児期の終わりまでに育ってほしい</p> <p><b>10の姿</b></p> <p>エ 道徳性・規範意識の芽生え</p> <p>カ 思考力の芽生え</p> <p>ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <p>評価日: O/O (O) 16:00~</p>

幼児期の終わりまでに育ってほしい

**10の姿**

エ 道徳性・規範意識の芽生え

カ 思考力の芽生え

ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

評価日: O/O (O) 16:00~

あそびを通して  
学習の基礎となる力を  
育てていけるといいですね



- ①丸いです
  - ②甘いです
  - ③穴があいています
- な〜んだ?

答えは



でした

スリーヒントゲームは、聞く力だけでなく、イメージする力や特徴を捉える力も育てることができます。

ゲームに慣れてきたら、イラストから特徴を捉えて、子どもが出題するようにしてもよいでしょう。形や色、使い方等、様々な観点に目を向け、相手に伝える力が育ちますね!





# 「CLMと個別の指導計画」実践報告会 開催

2023年12月10日(日) フレンテみえ

報告していただいた山梨県身延町、岐阜県高山市、三重県津市の3市町の報告にはほぼ満席(291名参加)となった会場からの熱い視線が寄せられ、その熱気は意見交換の場での熱い議論にも現れ、改めて関心の高さがうかがわれました。



今年度は「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と「接続期に育みたい子どもの姿」をテーマとしました。年長児クラスから2事例、小学校1年生クラスから1事例を報告いただき、具体的な実践例を通して、クラス全体の育成や個別の支援の在り方について、深く学び合う機会となりました。

## 山梨県 身延町

異年齢保育で育ち合う  
～リーダーシップが取れるようになったAさん～

縦割り(異年齢)保育の中でも、年長児を中心としたプランを実践できる!!と認識できた。具体的な発表でとても参考になった

## 岐阜県 高山市

通常学級の授業で生き生きと!  
～意欲的に取り組めるようになった～

「気になる子を指すのではなく、こちらの指導の仕方に指をさして見つめ直す」と言われたことがとてもわかりやすく、その理念を基に考えたい

## 三重県 津市

個別のかかわりからクラスへ  
～園全体で子どもたちと担任を支える～

個別で丁寧に関係づくりを行い、クラスの一員として戻していくプロセスが勉強になった。園で統一したブレない関わりがとてもいいなと思った

(アンケートの感想より)

次年度の「実践報告会」にも、素敵な報告&支援グッズを用意し、皆様のお越しをお待ちしております!

## <令和6年度の予定>

4月20日(土)	スキルアップ研修会 対象: みえ発達障がい支援システムアドバイザー、CLM コーチ
5月11日(土) 5月26日(日)	「CLMと個別の指導計画」初級研修会
7月25日(木)	「ここ・から」研修会
11月30日(土)	「CLMと個別の指導計画」実践報告会
12月21日(土)	ミニ学会 対象: みえ発達障がい支援システムアドバイザー

令和6年(2024年)3月12日

<発行> 三重県立子ども心身発達医療センター 発達総合支援部 医療連携課  
〒514-0125 三重県津市大里窪田町340番5 電話番号 059-253-2000(代)  
MAIL: hattatsuc@pref.mie.lg.jp URL: http://www.pref.mie.lg.jp/CHILDC/